予告

特別展

ビアズリーの系譜

アールヌーヴォー、日本の近代画家たち

会期：11.19[土]～2023.1.29[日]

休館日：月曜日（祝日の1月9日は開館）、年末年始（12.27～1.3）

料金：一般 1,000円（800円）、大学生 800円（640円）

※(　)内は20名以上の団体料金。
※下関市在住の65歳以上の方は半額免除。
※18歳以下、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒は、観覧料が免除されます。
※観覧料免除にはいずれも公的証明書が必要です。
※最新の情報は美術館HPをご確認ください。

19世紀末美術に特異な位置を占める画家オーブリー・ビアズリーに注目し、代表作『サロメ』を中心に、耽美的な魅力を紹介します。また、アールヌーヴォーなど同時代の美術と、西洋美術の受容期にあった日本の画家たちの作品・資料から、近代美術史のもう一つの側面を読み解きます。

☑ ビアズリーの代表作を、デビューから晩年までの約25点で紹介

ビアズリーのイラストは、発表当時から雑誌や書籍、ポスターなどの印刷物を通して読者の目に触れたもの。代表作『サロメ』挿絵と英語訳初版本のほか、挿絵画家としてデビューした雑誌『ステュディオ』創刊号、美術主任を務めた雑誌『イエロー・ブック』など、ビアズリーの創作の全容を紹介します。

☑ 時代の空気を伝える19世紀末の貴重書、アールヌーヴォーのポスターも

イギリス19世紀後半の木口木版の挿絵本や多色刷りのイラスト入り絵本を展示します。特に、ウィリアム・モリスとエドワード・バーン＝ジョーンズによるケルムスコットプレスの造本、ラファエル前派のダンテ・ゲイブリエル・ロセッティが装幀した詩集も注目です。ビアズリーと同時期にフランスで活躍したアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック、アールヌーヴォーの代表格アルフォンス・ミュシャらのポスターも紹介します。

☑ 日本の近代画家たちへの波及

同時代の西洋美術からのインパクトを物語る、藤島武二の『みだれ髪』（与謝野晶子著）の表紙絵、青木繁の《女（しおり）》などのアールヌーヴォー風の作例は必見です。橋口五葉や竹久夢二、岸田劉生の装幀デザイン、『白樺』、『月映』に関わる作家たちの創作など、「ビアズリー的なるもの」の系譜を紹介します。

オーブリー・ヴィンセント・ビアズリー（Aubrey Vincent Beardsley, 1872-98）
イギリス、イングランド南部のブライトンに生まれる。ほぼ独学で美術を学び、日本の浮世絵の影響も受けながら、独自の様式を確立した。『サロメ』の挿絵をはじめ、彼の作品には退廃的かつ官能的な雰囲気が満ちており、ビクトリア朝のイギリス社会に賛否両論を巻き起こした。結核により25歳で亡くなったため、画家としての活動期は５年あまりと短いが、アールヌーヴォーやポスター芸術への貢献は特に大きく、主に出版物を通して伝えられた彼の作品は、広く世界中でファンを魅了した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いいたします

【次に該当するお客様は、入館をご遠慮ください】
・発熱のある方
・咳・咽頭痛などの症状がある方
・過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国、または地域への訪問歴がある方

【館内では、以下にご協力ください】
・入館票（氏名・電話番号）の記入
・マスクの着用
・手指の消毒
・他のお客様との距離（2m程度）を保つ
・会話は必要最低限に

特別展　ビアズリーの系譜　アールヌーヴォー、日本の近代画家たち

1章　ビアズリーとその周辺

22歳のビアズリーが挿絵を手掛けた、オスカー・ワイルドの戯曲『サロメ』。官能性と死のテーマが織りなすイメージは、テキストと等価な絵画世界が展開する画期的なもので、発表されるや大評判となりました。ビアズリーのイラストを、『サロメ』挿絵全１７葉を軸に、実質的なデビューとなった雑誌『ステュディオ』創刊号、美術主任を務めた文芸美術雑誌『イエロー・ブック』などの雑誌や書籍資料とともに紹介します。
印刷技術の発展により可能となった繊細な線描、日本の浮世絵に学んだと言われる大胆な構図と装飾性、そして耽美的で退廃的な世界観が、ビアズリーの創作を特徴づけています。ビクトリア朝イギリスのヴィジュアルイメージの様相も、同時代の出版物を通して紹介します。

主な出品作家

オーブリー・ビアズリー、喜多川歌麿、ウィリアム・モリス、エドワード・バーン=ジョーンズ、ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ、ウォルター・クレイン、ケイト・グリーナウェイほか

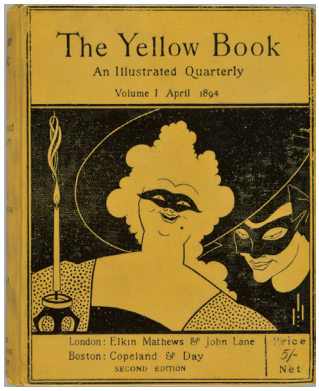
主な作品

所蔵元表記なしは下関市立美術館蔵

オーブリー・ビアズリー《サロメ》より
「孔雀のスカート」　1894 年
熊本県立美術館蔵

オーブリー・ビアズリー《サロメ》より
「ダンサーへの報酬」　1894 年
熊本県立美術館蔵

オーブリー・ビアズリー《サロメ》より
「クライマックス」　1894 年
熊本県立美術館蔵



オーブリー・ビアズリー『イエロー・ブック』
第１号表紙　1894 年

オーブリー・ビアズリー『イエロー・ブック』
第１号表紙　1894 年

◆『サロメ』前後期の展示替えについて

前期（11/29～12/26）
(1)「月の中の女」、(2)「タイトルページのためのデザイン」、(4)「挿画リストのためのデザイン」、(5)「孔雀のスカート」、(6)「黒いケープ」、(8)「ヨハネとサロメ」、(10)「ヘロデ（またはヘロディアス）の目」、(12)「サロメの化粧Ⅰ」、(14)「ダンサーへの報酬」、(15)「クライマックス」、(16)「長椅子にすわるサロメ」以上、11点
（カッコ付数字は、17葉の各シーンに振られた数字）

後期（2023/1/4～1/29）
(3)「表紙のためのデザイン」、(5)「孔雀のスカート」、(6)「黒いケープ」、(7)「プラトニックな悲嘆」、（8）「ヨハネとサロメ」、（9）「ヘロディアス登場」、(11)「腹のダンス（ヘロデの前で挑発的に踊るサロメ）」、（13）「サロメの化粧Ⅱ」、(14)「ダンサーへの報酬」、(15)「クライマックス」、(17)「終章」　以上、11点

※(5)「孔雀のスカート」、(6)「黒いケープ」、(8)「ヨハネとサロメ」、（14）「ダンサーへの報酬」、(15)「クライマックス」　の**5点は、通期展示**します。

2章　アールヌーヴォーへの波及

曲線を多用した装飾的な様式で、ビアズリーとアールヌーヴォーの表現は軌を一にします。この章では19世紀末美術の、華やかさの背後に潜む神秘性や象徴性に目を留めて紹介します。
生前からビアズリーに関心を寄せていたトゥールーズ＝ロートレック、アメリカのビアズリーことブラッドリー、優美な女性像と装飾性を融合させたアールヌーヴォー様式の代表格ミュシャらのポスターを展示します。ガラス工芸作家エミール・ガレと、下関にゆかりの日本画家で技術官僚時代にフランスに留学した高島北海の、アールヌーヴォー前夜における交流も紹介します。
世紀末芸術が好んだ女性像に、「ファム・ファタル（運命の女）」があります。男性を破滅させる魔性の女のイメージで、サロメはまさにその典型と言えます。一方で現実の社会には、仕事を持ち、同伴者なしに出歩く「進歩的な」女性たちが登場します。例えばビアズリーが『イエロー・ブック』で描いたパーティーに興じる女たちなどは、この「新しい女」の典型にみえます。女性を巡る多義的なイメージを投影した作品にも注目します。

主な出品作家

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック、アルフォンス・ミュシャ、ピエール・ボナール、マックス・クリンガー、ウィリアム・ブラッドリー、レオノール・フィニーほか

いずれも下関市立美術館蔵

主な作品

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
《ディヴァン・ジャポネ》 1892 年

アルフォンス・ミュシャ《ジョブ》1898 年

ウィリアム・ブラッドリー
《ブラッドリー・ヒズ・ブック》1896 年

2章　日本の画家たち

西洋美術の受容期に、日本の美術家たちがビアズリーをはじめとする世紀末美術から受けたインパクトも見逃せません。特に神秘性や象徴性を託した女性像の表現に、19世紀末美術の象徴主義的な一面が垣間見えます。藤島武二、青木繁らのアールヌーヴォー様式、橋口五葉や竹久夢二の装幀デザイン、さらに雑誌『明星』や『方寸』、『白樺』、『月映』に関わる画家たちの作品・資料から、日本の近代美術がビアズリーから受け継いだものに迫ります。

主な出品作家

青木繁、藤島武二、橋口五葉、和田英作、岸田劉生、竹久夢二、藤森静雄、長谷川潔、浜田知明、ほか

主な作品

藤島武二『みだれ髪』（鳳〔与謝野〕晶子著）
表紙　1901 年　かごしま近代文学館蔵

青木繁《女（しおり）》1904 年
個人蔵（久留米市美術館寄託）

橋口五葉《はがき絵「花の香をかぐ女」》
1905 年頃　鹿児島市立美術館蔵

橋口五葉《此美人》1911 年
鹿児島市立美術館蔵

藤森静雄《亡びゆく肉》（『月映』Ⅳより）
1915 年　福岡市美術館蔵

関連イベント

ワークショップ「型紙で作る手ぬぐい」

ジャポニスムの西洋で注目された日本の型紙の図案をヒントに、手拭いに絵柄をつけます。
日時：2022年11月23日(水・祝)　①10時～/②13時～(約2時間)
会場：下関市立美術館　造形室
参加費：1,000円
対象・定員：中学生以上・各回12名(11月12日までに申し込みが必要です)

美術講座「ビアズリーと19世紀末美術」

日時：2022年12月17日(土)　13時30分～(約1時間)
会場：下関市立美術館　講堂
※参加無料で事前申込不要ですが、当日の観覧受付が必要です。

ファッションショー＆トーク「19世紀末美術とファッション」

ビアズリーのクリエイションを現代に置き換えて体感するファッションショーとトークショーにより、
美術とファッションの関わりについて考えます。

日時：2023年1月14日(土)　17時30分～(約1時間30分)
講師：浜井弘治(服飾デザイナー）、聞き手：鴻池和彦（映像プロデューサー）
会場：下関市立美術館　光庭およびエントランスホール
参加費：一般1,000円/18歳以下無料
定員：60名(1月16日までに申し込みが必要です）

ワークショップ、ファッションショー＆トークの申込方法

美術館ＨＰに掲載されている応募フォームか、美術館に来館またはお電話にて「1.イベント名、2.氏名、
3.連絡先(電話番号)」をお知らせください。
お申込期限：ワークショップ　11月12日(土）、ファッションショー＆トーク　2023年1月6日(金)

イラスト作品募集

ビアズリーの作品から着想したイラスト作品を募集し、特別展会期中、美術館内で公開します。
詳しくは応募要項・出品票をご参照ください。

下関市立美術館
Shimonoseki City Art Museum
〒752-0986 山口県下関市長府黒門東町1-1
TEL. 083-245-4131　FAX. 083-245-6768
E-Mail kibijuts@city.shimonoseki.yamaguchi.jp
HP https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art
詳細はHPへ！
下関市立美術館
問合せ先 下関市立美術館（担当：渡邉祐子）

広報用画像

以下の作品は画像の用意があります。必要な画像データがありましたら、美術館にお問い合わせください。

1-1

オーブリー・ビアズリー『サロメ』
挿絵より《孔雀のスカート》
1894 年　熊本県立美術館蔵

1-2

オーブリー・ビアズリー『サロメ』
挿絵より《黒いケープ》
1894 年　熊本県立美術館蔵

1-3

オーブリー・ビアズリー『サロメ』
挿絵より《ヨハネとサロメ》
1894 年　熊本県立美術館蔵

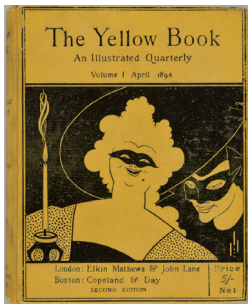
1-4

オーブリー・ビアズリー『サロメ』
挿絵より《ダンサーへの報酬》
1894 年　熊本県立美術館蔵

1-5

オーブリー・ビアズリー『サロメ』
挿絵より《クライマックス》
1894 年　熊本県立美術館蔵

1-6



『イエロー・ブック』第 1 号表紙
1894 年　下関市立美術館蔵

1-7

『イエロー・ブック』全号表紙 1894-1896 年
下関市立美術館蔵

2-1

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《ディヴァン・ジャポネ》
1892 年　下関市立美術館蔵

2-2

アルフォンス・ミュシャ
《ジョブ》1898 年
下関市立美術館蔵

2-3

ウィリアム・ブラッドリー
《ブラッドリー・ヒズ・ブック》
1896 年　下関市立美術館蔵

3-1

藤島武二『みだれ髪』
（鳳〔与謝野〕晶子著）
表紙　1901 年
かごしま近代文学館蔵

3-2

橋口五葉《はがき絵「花の香をかぐ女」》
1905 年頃　鹿児島市立美術館蔵

3-3

橋口五葉《此美人》1911 年
鹿児島市立美術館蔵

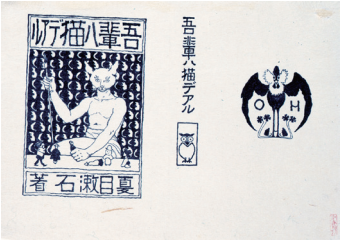
3-4

橋口五葉《化粧の女》1918 年
鹿児島県歴史・美術センター
黎明館蔵

3-5

橋口五葉《髪すける女》1918 年
鹿児島県歴史・美術センター黎明館

3-6



橋口五葉『吾輩ハ猫デアル・上編』のジャケット
下絵　鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵

3-7

和田英作『明星』申年第四號表紙
1908 年　鹿児島市立美術館蔵

3-8

藤森静雄《亡びゆく肉》
（『月映』Ⅳ所収）1915 年
福岡市美術館蔵

3-9

河村幸次郎《チュニスの少女　シディ・ブ・サイドの風景》1988 年　下関市立美術館蔵

下関市立美術館
Shimonoseki City Art Museum
〒752-0986 山口県下関市長府黒門東町1-1
TEL. 083-245-4131　FAX. 083-245-6768
E-Mail kibijuts@city.shimonoseki.yamaguchi.jp
HP https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art

詳細はHPへ！
下関市立美術館